

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 12 NO. 3

(通巻47号)

昭和61年2月1日発行

編集・発行人 平野 馨

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)

松尾敏男

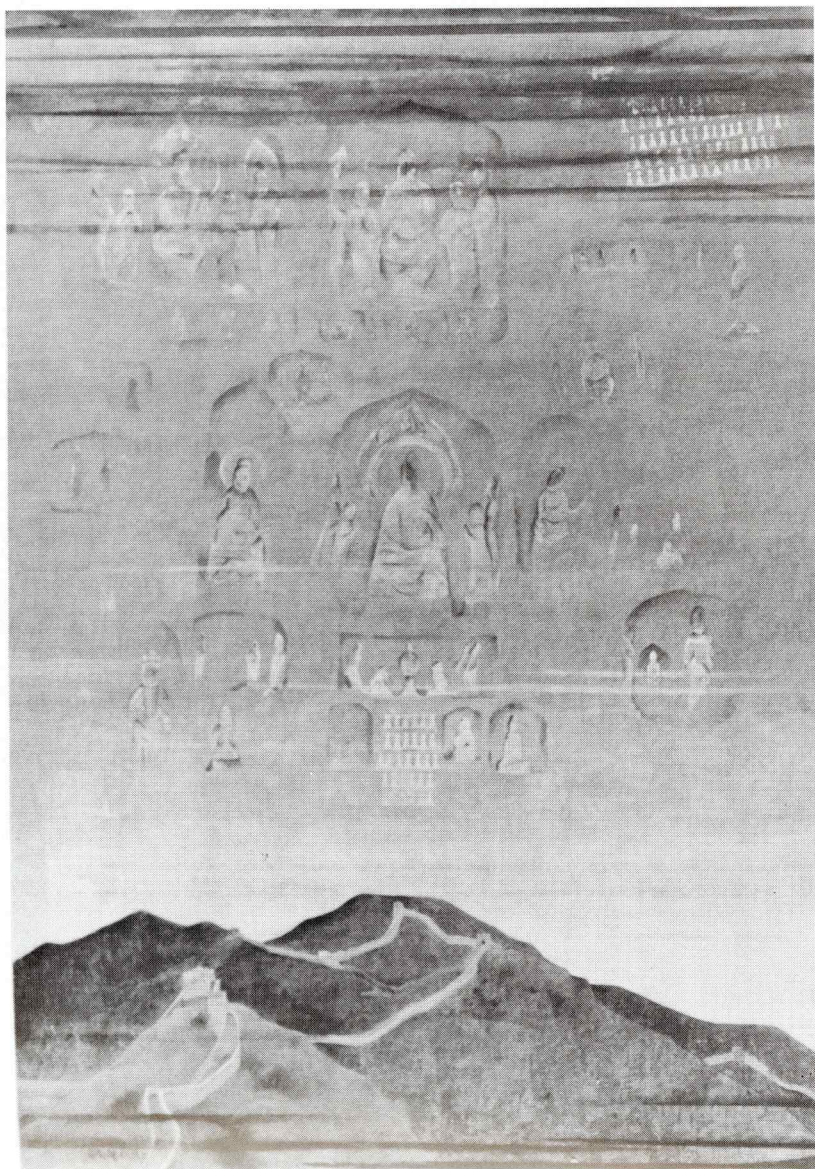
「歷程」

一九八四年

紙本着彩

花鳥画などに高い評価を得ている作者であるが、近年はインド、中国を何度か訪れ、かの地に取材した作品を発表している。この作品も下方に万里の長城を描き、それを見おろすように、金色の空に無数の竜門石窟の小仏龕(ぶつがん)を配して、はるかな

中国の悠久の歴史を表わしている。堅山南風に師事し、院展で活躍。昭和五十四年には日本芸術院賞を受賞した。また、八十年代市に永く住み、千葉県美術界に大きく貢献し、昭和六十年代千葉県教育功労者の表彰を受けた。



収蔵作品展 III期

61.3.16

＝第1部＝

風景画の世界

今年度収蔵作品展第III期は、2部に分けて構成し、順次展示替えを行ないながら、収蔵作品を展覧しています。

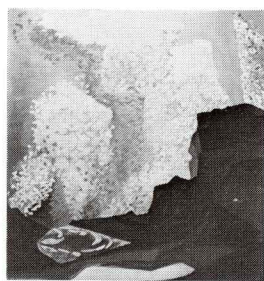
第1部「風景画の世界」は、日本画、洋画、版画の3分野から成っています。各作家によって、様々にとらえられ表現されている「風景」の魅力を御鑑賞いただきたいと思えます。

主な展示作品は次の通りです。

○日本画

南画の小室翠雲に師事した田岡春径の「幽」、現代日本

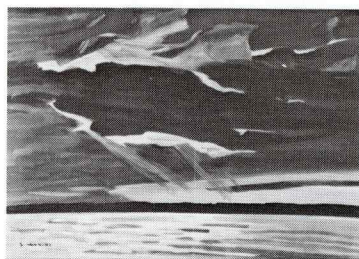
画壇を代表する作家の一人である東山魁夷の「春雪」、「秋深」、創画会の第一人者である吉岡堅二の「濤」、日本表現派を創立し、日本画のフォーヴィスムともいべき画風で注目される岩崎巴人の「波濤岩礁図」のほか、峯岸巍山人「九十九谷」、関主税「潤声」、後藤純男「山門雨後」などを展示しています。



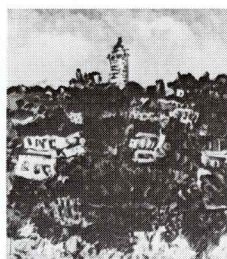
吉岡堅二 「濤」

○洋画

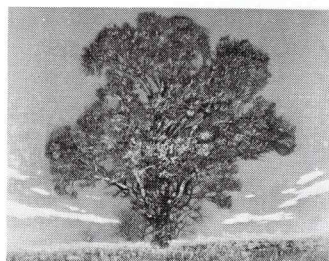
油彩では、カミュー・コロ「フォンテンブローの風景」、浅井忠「藁屋根」、松岡寿「森と小川」、都鳥英喜「巴里郊外サンクル」、石井柏亭「安倍川」、間部時雄「田園風景」、安井曾太郎「熱海附近」、梅原龍三郎「皇居」、原勝郎「京橋」、石橋武治「白鷺のいる風景」、椿貞雄「鋸山から見た房総半島」、山本不二夫「ハイデルベルグ風景」、笹岡了一「秋麗芦の湖」、桜田精一「冬の並木道」、松本秋美「aspettare」、溝口七生「高原の樹々」、斎藤捷夫「海辺の光景」、高森登志夫「絵画」など。水彩では、浅井忠「フォンテンブローの森」、大下藤次郎「青梅」、白滝幾



小堀 進 「霞ヶ浦」



梅原龍三郎 「皇居」



星 襄一 「野の木(A)」

○版画

カラーメゾティントによる独自の世界を築き、国際的に高く評価される浜口陽三の「パリの屋根」、繊細で詩情あふれる木版画作品を発表した星襄一の「野の木(A)」、「枯草の風景(B)」などを展示しています。

之助「伊国アシシ」、中林傑「冬の風景」、加藤源之助「秋の山(大和初瀬村)」、長谷川良雄「高等工芸学校西裏通り」、中西利雄「南仏風景」、小堀進「霞ヶ浦」、三橋兄弟治「トレド早春」などを展示しています。

特別展 フランス名画展

―講習会・語る会も盛況―

本展は昭和60年8月23日から9月16日まで開かれた。フランスの18世紀から20世紀前半までの近代絵画の流れを体系的にとらえたもので、各傾向各作家ごとに解説パネルを設け、わかりやすく紹介した。9月1日、洋画家・松沢茂雄氏による美術講演会が開かれた。近代のフランスの絵画がどのような作家たちにより形成されていったかを、スライドを交えて講演された。14日には、洋画家・花香利治氏を講師とし、美術を語る会が開かれた。印象派の画家たちの活動の軌跡を日仏両国の時代背景と対比しながら解説された。いずれもフランス近代美術の理解に有益な内容で、本展を一層意義深いものとした。



昭和60年度 常設

60.12.13～

＝第2部＝ 新収蔵作品

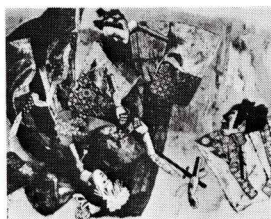
第2部では、昭和60年度に新たに収蔵した作品を中心に、日本画、洋画、彫塑、工芸、版画の5分野を展覧しています。（会期中展示替えを行います。）

主な作家と作品の紹介 大森運夫「時空往還」

一九三三年 紙・着彩

大正6年愛知県に生まれ、創画会で活躍。新制作協会展、新作家賞、山種美術館賞展大賞などを受賞。船橋市に在住。作者は各地の伝統芸能を取材し、それぞれの土地に伝わる祭りの中の人々の熱気を画面に表わそうとしてきた。現在は文楽人形を描いた作品を多く発表している。この作品

はそのテーマにとりくんだ最初の大作で、出身地愛知県の文楽人形を題材としている。3体の人形の表情、向き、着物の形などが渦を巻いているような画面構成で、時間と空間を超えて漂う人形の幻想的な雰囲気を感じられる。



大森運夫 「時空往還」

佐藤忠良「ラップ帽」

一九三六年 ブロンズ

明治45年宮城県に生まれ、東京美術学校に学ぶ。新制作協会展で活躍し、高村光太郎賞、芸術選奨文部大臣賞、中原悌二郎賞などを受賞。パリ・ロダン美術館で開催した個展で国際的に高い評価を受けた。

この作品は、一連の帽子シリーズに入れられるもので、高さ三〇センチメートル余の小さな首であるが、一切の装飾のない、均斉のとれたフォルムには、密度の高い、ずっしりとした重さがある。

佐藤忠良「ラップ帽」



舟越保武「婦人像」

一九三五年 ブロンズ

大正元年岩手県に生まれ、東京美術学校に学ぶ。新制作協会展で活躍し、高村光太郎賞、中原悌二郎賞、芸術選奨文部大臣賞などを受賞。「原の城」をローマ法王に寄贈し、勲章を授かる。また、「巨岩と花びら」で日本エッセイストクラブ賞を受賞。

端正な美貌（びぼう）の女性像を多く制作しているが、いずれも静かな、慈しみ深いまなざしをしていて、その像自体に高い品格がそなわっているような印象さを受ける。細かいところまで丹念に彫られて



舟越保武 「婦人像」

いる。この作品は、昨年の第49回新制作協会展に出品された。

会田富康「青銅双鳥置物」

鍍金

明治34年館山市に生まれ、山本安曇に師事。日展及び工彩会展で活躍。商工省工芸展、商工大臣賞、日展特選などを受賞。「日本古印新攷」などの著書がある。

この作品は工彩会展に出品された。作者は魚や鳥をよく扱っているが、これも鳥の形を単純化して、一羽ずつ鑄造してから台に取り付けた作品である。向い合う二羽の向きが微妙なバランスを保ち、ほほえましい。



会田富康 「青銅双鳥置物」

企画展 今関啓司展

―初めての本格的な回顧展―
9月19日から10月13日まで房総の美術家シリーズの第15回展として開催した。個性派の時代と呼ばれた大正期から昭和前期に活躍した今関啓司について、初の本格的な回顧展として注目された。長期にわたる調査で確認できた遺作のうち、油彩画については34点総てを展示、他に水墨画28点、素描19点、関係資料17件を選び展覧した。また、9月28日第3回美術を語る会、「今関啓司―人と芸術」を開催。遺族で洋画家の今関一馬、今関驚人両氏の話を中心に、昭和21年53歳の若さでなくなった今関啓司を偲（しの）んだ。当日、映画「今関啓司―房総の洋画家―」（県教委制作）も併せて上映した。



新収蔵作品紹介

昭和60年度に収蔵された作品は次の通りです。

(昭和61年2月1日現在)

購入

- 石井林響作「高士観瀑」(絹・着彩) 他8点
大森運夫作「灯翳・肅宴」(紙・着彩・2面1組)
小柳吉次作「叢」(キャンバス・油彩)
佐藤忠良作「ラップ帽」(ブロンズ)
舟越保武作「婦人像」(ブロンズ)
大岡丈夫作「ヨガ」(ブロンズ)
堀川恭作「聖なる佇立」(木)
山崎猛作「木馬の詩」(ブロンズ)
原武典作「水の中の太陽」(真鍮・しんちゅう)
久保田侃通作「さりげなく」(ブロンズ)
六崎敏光作「暖流」(ブロンズ)
島田勝吾作「少女と鳥」(ブロンズ)
山本正道作「ヴァージニア」(ブロンズ)

- 梅原正夫作「なかよし」(アルミ)
三木俊治作「行列」(ブロンズ・コルテン鋼)
金田雄作「Bag Room」N氏邸見取図より」(ブロンズ)
酒井良作「時を刻む」(石)
高田大作「リラククス」(石)
津田信夫作「荒鷲」(鍍金) 他5点
会田富康作「青銅双鳥置物」(鍍金)
鈴木治平作「湿原の詩」(鍍金)
津田永寿作「鳥の花器」(鍍金)
次(資料を寄贈いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。)

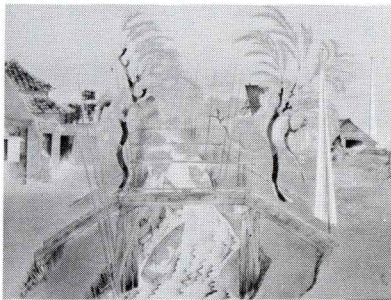
寄贈

- 富取町子氏より
富取風堂作「游鯉(其一)」(絹・着彩) 他32点
横尾芳月氏より
横尾芳月氏作「熱海風景」(紙・着彩) 他2点
村松ノブ氏より
村松乙彦作「菊人形」(紙・着彩) 他2点
大森運夫氏より
大森運夫作「時空往還」(紙・着彩)
松尾敏男氏より
松尾敏男作「歷程」(紙・着彩)
荒谷直之介氏より
赤城泰舒作「風景」(紙・水彩)
安西順一氏より
高村光太郎差出書簡一通
宮島トメ氏より
宮嶋美明作「慾望」(キャンバス・油彩) 他1点
日野耕之祐氏より
日野耕之祐作「黒い雲」(キャンバス・油彩)
堀川恭氏より
堀川恭作「丸いフォルム」(木)
原武典氏より
原武典作「水の中の太陽」(真鍮)
久保田侃通氏より
久保田侃通作「若き悩み」(ブロンズ)
六崎敏光氏より
六崎敏光作「香風」(ブロンズ)
山本正道氏より
山本正道作「エトルリアの壺」(ブロンズ)
梅原正夫氏より
梅原正夫作「母と子」(ブロンズ)

保換替

- 三木俊治氏より
三木俊治作「北国からの男」(ブロンズ)
会田富康氏より
会田富康作「蓋のある青銅壺」(鍍金)
津田永寿氏より
津田永寿作「幾星霜」(鍍金)
牛玖健治氏より
牛玖健治作「作品発芽」(うるし版) 他5点
千葉県総務部管財課より
村松乙彦作「空」(紙・着彩)

富取風堂「葛西風景」



第九回

千葉県移動美術館

―身近かで実物を見る喜び―

館の収蔵作品を巡回展示する移動美術館は今回で9回目を迎えた。今回は八千代市文化センターホール(9月11日、23日)と津市役所5階大ホール(9月26日、10月15日)を会場として開催した。展示作品は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画にわたる39作家48点。

地元両市では本展の効果をあげるため、開催時間の配慮等をはじめ様々な工夫が見られた。

また鑑賞者からの反響も多く、実物を見ることができた・近くで鑑賞できた・もつと多くの作品を見たい・今後も開いてほしい等、本展を通して美術への深い関心がかがわれた。



かたる・つくる

美術を語る会

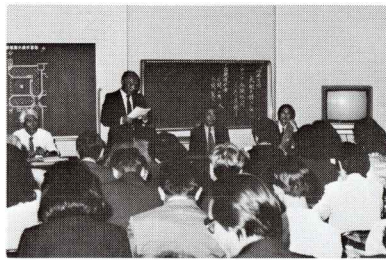
「かたる」活動の一環として
すっかり定着した「美術を語る会」は、特別展や企画展に関連した話題をとりあげ、毎回、特色ある講師を招き、多彩な語り合いがされている。

第3回美術を語る会は、9月28日に開かれた。企画展「今関啓司展」に伴い、今関一馬、今関驚人両氏より芸術家・父親としての今関啓司像が語られ、会場には洋画家の倉田三郎氏、原精一氏も出席、なかなかの雰囲気の中に今関の「人と芸術」が話し合われた。11月30日には第4回美術を語る会が「子供の創造活動」のテーマで本館学芸課副主査・高村照夫が話題を提供した。当日は児童画関係の団体展が

(美術を語る会・実技講座等)

開催されており、子供と造形について熱心な語り合いが行なわれた。

第5回は2月1日に開かれる。本館研究員の村田哲朗氏をむかえ、「浅井忠と従征画稿」について、その研究成果の発表や、浅井の生涯などについて語られる。



第3回 美術を語る会

美術館研究員会議

中間報告

美術館研究員会議は美術館の専門的・技術的な事項に関する研究を行なうために置かれている。今後の研究テーマの一つとして、近代洋画の先駆者、浅井忠が書き記した日清戦争従軍記「従征画稿」の解明を通して、浅井忠の生涯、及び彼の芸術の一端を探索することとした。

今年度はその第一歩として従征画稿の翻刻を研究員村田哲朗、綿貫啓一の両氏が担当。他の研究員は、同画稿のスケッチ等について研究をすすめている。第2回会議は2月1日(土)に開催される。

〈情報資料室から〉

新着図書案内

〈美術一般〉

新潮世界美術辞典
世界の現代美術
日展史15
明治文化史 8
明治洋画史料 懷想篇

〈絵画〉

加藤栄三画集
世界の巨匠シリーズ60
田中一村作品集
古き町にて
〈版画〉
石井鶴三版画集

〈書道〉

書道史年表
中国書道辞典
〈彫刻〉
屋外彫刻
舟越保武
〈工芸〉
ガレのガラス芸術

現代陶芸家名鑑
彫刻作家を
調べてみませんか

現代美術社 '80
佐藤忠良作品集
125 P 38 cm 年譜
◇舟越保武作品集
159 P 36 cm 年譜
講談社 '82

ごあんない・団体展

美術展覧会

- 千葉大学教育学部美術科卒業制作展
2月4日～2月9日
- 第20回千葉大学学生書道展
2月4日～2月9日
- 第38回千葉県小中高書初展
2月4日～2月9日
- 第10回葉美会展覧会
2月4日～2月16日
- 子ども造形展
2月11日～2月16日
- 第11回千葉県写真展
2月11日～2月23日
- 親子絵画展
2月11日～2月16日
- 第9回唱和会書展
2月18日～2月23日
- 幕張北高校書道コース卒業制作展
2月18日～2月23日
- 群嶋書人展
2月25日～3月2日
- 書星選抜展
2月25日～3月2日
- 和洋女子大学書道卒業展
(雁鴻会展)
2月25日～3月2日
- 昭和60年度第17回千葉市民
2月25日～3月2日
- 第33回書星教育部展
3月25日～3月30日
- 第12回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展
4月8日～4月13日
- エテロクリット展
4月8日～4月13日
- レリーフ展
4月8日～4月20日
- 第23回全日本書の友の会総合書道大展覧会
4月15日～4月20日
- 千葉等巡展
4月22日～4月27日
- 第6回千葉美術工芸展
4月29日～5月11日
- 第7回表美展
4月29日～5月5日
- 第13回千葉新協展
4月29日～5月5日
- 日本書道ペン字教育記念展
5月7日～5月11日
- 第12回歩会彫刻展
4月29日～5月11日
- 第10回墨の景展
5月13日～5月18日
- 第31回二科会千葉支部展
5月20日～5月25日
- 二紀会千葉支部展
5月20日～5月25日

'85 実技講座をふりかえって

県民の芸術創作活動の広場として、みる・かたる・つくるというテーマのもとに本館で行われてきた実技講座も、昭和51年度から早10年を迎えるまでになりました。当初絵画と版画実技講座の2種類で始まった講座も、県民の様々な御要望により各種講座を随時開設し、本年度は10種・22期、延97日間にわたり実施しました。1月末までに行なった講座は次のとおりです。

〈入門講座〉

日本画（宮沢一雅）
デッサン（1）羽生智樹・（2）戸田健夫・（3）五十嵐光昭（洋画）（1）太田洋三・（2）根岸茂行・（3）渡辺晋（版画）（平野正房）彫塑（久保造）七宝焼（長南光男）陶芸（清野一郎）書芸（宇津木雀声）てん刻（霊園鴻甫）

〈研修講座〉

日本画（松原道男）洋画（1）篠崎輝夫・（2）高橋規矩治郎・（3）天野三郎 陶芸（神谷紀雄）書芸（種谷扇舟）てん刻（霊園鴻甫）

（一）は講師名・敬称略
各講座とも熱心な制作が展開され、その中から次の3名の受講後の感想をアンケートより紹介します。

◎洋画入門講座（42歳・主婦）

家庭では風景、静物など自分でモチーフを見つけ勉強していますが、裸婦は美術館を利用しなければできません。また、いっしょに参加している人の絵を見ることも大変勉強になりますので、講座数を増していただき自由に参加できるような講座になるよう願っています。



◎陶芸入門講座（59歳・女）

土をこね、下絵を描き、釉をつけ、陶器を作り上げるのは大変面白く、また非常に難しくもあり、初心者ながら



奥の深さを感じる次第です。現在お茶を習っており、自作の抹茶茶碗で茶をいれたいと、自ずと味も違ってくるように思えます。

今後更に土に馴染み、陶芸を楽しみたいと思っています。大変お世話になりました。

◎版画入門講座（32歳・男）

以前から銅版画に興味があり参加しましたが、予想以上に手順や技法が複雑で困惑しました。しかしそれだけに作品が出来上がった時の喜びはひとしおでした。今後版画をはじめ絵画を鑑賞する時には、今までのように一観覧者としてではなく、技法などの表現方法を実作者の視点に立って臨みたいと思います。次回の開催を楽しみにしています。

募集しています

◆金工入門講座

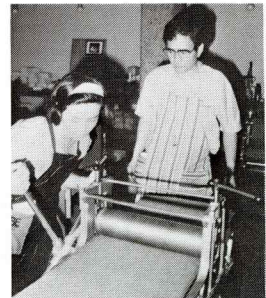
期日 2月18日(火)～22日(土)
申込締切 2月8日(土)

かねてより皆様から御要望のありました金工入門講座を本年度新設しました。今回は鈴木治平氏（東京芸大教授）を講師に招き、特に鍍金の基礎的な技法について指導していただきます。

◆書芸研修講座(II)

期日 2月25日(火)・26日(水)
講師 浅見錦龍氏（県美術会常任理事）

申込締切 2月15日(土)
受講希望者は、往復はがきに希望講座・住所・氏名・電話番号を明記の上、学芸課普及班あてお申し込みください。



日誌抄

7・22

博物館実習（27日まで、14名）在学大学

—東京家政学院大学—

お茶の水女子大学・

国士館大学・和洋女子大学・武蔵野美術大学・大正大学・日本女子大学・実践女子大学

27 美術館夏季大学

特別展「フランス名画展」（9月16日まで）

9・1

第二回美術講演会（講師松沢茂雄氏）

9・7

第二回美術協議会

第九回千葉県移動美術館（八千代市、23日まで）

9・14

第二回美術を語る会（講師花香利治氏）

9・19

企画展今関啓司展（10月13日まで）

9・26

第九回千葉県移動美術館（君津市、10月15日まで）

9・28

第三回美術を語る会（講師今関一馬・今関人両氏）

11・30

第四回美術を語る会（講師当館副主査高村照夫）